（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

熊本県立八代工業高等学校（全日制）　令和６年度（２０２４年度）学校評価表

１ 学校教育目標

校訓「誠実」のもと、八代地域にある唯一の工業系学科の高校として、課題解決力を持ち、新たな価値や技術革新を産み出す県産業界で活躍できる創造的エンジニアの育成を目指す。
希望する進路実現に向け、実践的キャリア教育を推進するとともに、産業界、地域との連携・協働により、主体性や言語化、考える力等「コトづくり」やＤＸ社会に対応する為に必要な力を育む教育を展開する。

２ 本年度の重点目標

令和６年度教育スローガン「考え・気づき・動く～自ら考えることが気づきにつながり、行動に一寸ずつの変化が生まれる。その積み重ねが成長へつながる。～」
（１）健全な心身の育成
（２）学力の定着向上と進路実現に向けた取組の充実
（３）マイスター・ハイスクール事業の継承（熊本県版ＭＨＳの先導校として）
（４）信頼される学校づくり
（５）ＩＣＴの活用、校務整理と業務改善

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	学校目標及び重点目標の共有	・学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底	・教育目標と重点目標を説明し、教職員は95%、生徒・保護者は80%以上の認知度が目標	・職員会議、全校集会、PTA総会、学年保護者会学校新聞等で本年度教育方針等の説明	A	・学校評価アンケートの結果は、職員100%（前年比+2.6P）、生徒88.7%（前年比-1.0P）、保護者83.8%（前年比-0.4P）であった。PTA総会や学年保護者会開催実施により理解は浸透している。
	業務改善及び働き方改革	・業務改善意識の醸成 ・職員間の仕事上の連携	・職員アンケートによる計画的な「校務の工夫と超過勤務削減への取組についてできている」を７０%以上、「職場へ向かうことが楽しい」が70%以上 ・教職員の月平均超過勤務時間を３５時間以内 ・業務改善策の取組	・業務改善の意見集約と働きやすい職場環境づくり ・1on1ミーティングによる職員間の価値観・判断基準の共有 ・業務改善の提案ができる職場づくり	B	「職員の取組姿勢」は73.2%（前年比+7.9P）に向上。 ・「職場へ向かうことが楽しい」は71.8%と目標地を達成している。一方、否定的な意見が28.2%ありこちらの意見に注目する必要がある。面談をとおし感情を共有することで具体的な行動を支援する。 ・今年度は、意見を出す場を設け職員研修を実施した。 ・平均超過勤務は34時間52分で目標は達成だが、一部職員の超過勤務の突出が改善課題である。
	学校活性化	・入学希望者定員確保への更なる取組	・職員による中学校訪問や中学生向けの説明会への出席（出身卒業生の発表） ・適時の情報発信と内容の充実 ・体験入学等の説明内容の工夫と充実	・6月学校説明会 ・7月体験入学 ・11月進路状況報告 ・HP、インスタグラムを活用した情報発信	A	・具体的方策により本年度前期選抜の志願者数は、管内中学校の卒業生数が減少する中において増加（206名、昨年度198名）。取組は得策であったと評価できる。
学力向上	生徒の学力向上	・自学の習慣化	・1日1時間以上の自学	・アンケート（forms）による調査	B	2月の学年末考査後に実施予定。時期によって結果が変わる点にも注意が必要であるため、実施時期や回数も含めて再検討したい。
		・定期考査前の学習指導	・各学年の欠点者保持者数が10%未満	・成績不振者対象の期末考査前補習を実施、各部活動に考査前学習会実施を呼びかける	B	成績不振者に対する補習は各科・各部活動の協力のもと期末考査前には実施することができたが、欠点保持者の増加に歯止めをかけることができなかった。実施方法などを含めて検討が必要である。

	教員の授業力向上	・授業見学の機会確保 ・ICTを活用した実践的授業への取組	・公開授業週間を年間で３回設定し、各２回以上見学 ・各教科の各単元でICTを活用した授業を１回は実施	・教務部で立案し、学校全体で取り組む ・授業評価アンケートの分析を通じた授業改善	B	公開授業週間を各学期で実施した。各2回以上の授業見学を掲げたが、実施期間が短かったこともあり、教員の多忙感に拍車をかけてしまった。また、保護者の参加が少ないという点も課題である。授業評価アンケートについては生徒の回答後すぐに担当者が内容を確認できるようにしたため、より迅速な授業改善につなげることができた。
	工業分野に関する知識と技術の習得	・各種イベントへの参加及び各種大会での上位進出 ・地域と連携した「ものづくり」	・各種コンテストでの入賞こども科学フェアの継続実施 ・地域への貢献活動を各科１回実施	・大会出場者への指導及び学校広報活動を充実 ・地域のニーズに即した課題設定及び探求活動を推進	A	3年生の課題研究を中心に、各科が地域と連携しながら様々な取組を行うことができた。またそれに伴い、地域への貢献活動も各科盛んに行うことができた。「ものづくり」コンテストで工業化学科が化学分析部門において銀賞を獲得するなどの結果を残した。
キャリア教育（進路指導）	進路指導×ＩＣＴの加速度的推進	・進路活動におけるICT活用の充実	ICTを活用した進路活動を全生徒が1回以上体験	Chromebookの活用	A	キャリアパスポート及び進路希望調査、求人票の閲覧、履歴書の作成をChromebookで実施した。
		・ICTを活用した資料作成や業務の効率化向上	ICTを活用したデータ共有によるペーパレス化を昨年度比80％以上達成	学年会、進路希望調査、キャリアパスポートのChromebookを活用した情報の共有化	A	進路希望調査およびキャリアパスポートは個票での出力を可能にし、全職員で情報共有を図っている。活用状況については次年度以降に検証していかなければならない。
	主体的な進路選択の実現	インターンシップ活動の改善と充実化	事前事後指導の充実及びマイスター・ハイスクール型企業実習の実施	インターンシップにおける本校のフレームワークの再構築	A	事前事後指導は充実し、学校全体としてマイスター・ハイスクール型企業実習が実施できた。本年度の取り組みを次年度以降にも継続していきたい。
		・定期的なガイダンス等実施による情報収集機会の充実	・各学年、年1回以上の進路ガイダンスおよび進路講話を実施	・対面型での実施 ・毎月発行予定の進路だよりの充実	B	進路ガイダンスは2月21に実施予定。産業講話についても年3回実施した。進路だよりの発行ができておらず、次年度以降の課題となった。
生徒指導	問題行動、交通事故等の未然防止	・特別指導及び一般指導件数	・特別指導件数の昨年度比10％減少 ・スマートフォン指導の昨年度比10％減少 ・個々に応じた特別な指導計画の作成と実施	・スマホ安全教室 ・いじめ防止講座、薬物乱用防止講話の実施（警察との連携） ・生徒会との連携による生活指導の呼びかけ ・全職員での登校指導、日常的な生徒指導の充実 ・毎月発行の生徒指導だよりの充実	B	・各講話については警察と連携を図り実施することができた。特別な指導については6件10名（昨年度比-4件-2名）と目標を達成することができた。 ・スマートフォンの指導については生徒会と連携して教室にポスター掲示など行い15件（昨年度24件）に減少した。 ・全職員での登校指導や毎月発行の生徒指導部だより・関係機関からの情報発信など、計画的な生徒指導を実施。
		・交通事故発生件数	・交通事故件数の減少	・交通安全講話の実施（警察との連携） ・県内における交通安全情報の提供 ・登下校の校外指導の充実 ・「すぐーる」よる情報発信	A	・警察と連携して交通講話の実施をし、交通情報についても「すぐーる」にて発信できた。交通事故件数は5件と昨年度から11件も減少した。地域からの苦情もあったが、お褒めの連絡も頂いた。

	発達支持的生徒指導の実践	・個々の生徒に応じたきめ細やかな支援や指導	・課題を抱えた生徒の組織的な支援体制の充実	・生徒指導部会の月1開催 ・いじめアンケートの実施（学期毎） ・科や学年、担任、副担任教育相談部と組織での共有と迅速な対応	A	・月1で部会を実施することができ、学年学科との共有が出来た。 ・各学期いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見につなげることができた。
		・教育相談体制の連携充実（保護者、関係機関等、専門機関等）	・特別な指導の充実	・SSW及びSC、教育相談や特別支援教育担当と連携	A	・教育相談部と連携を密にとり、課題のある生徒への早期対応やSC面談など行うことができた。 ・SSWや専門医療機関など含めた今後の対応や指導上の留意点などの情報共有を行うことができた。
人権教育の推進	研修の充実	・人権感覚が深まったか	・校内・校外研修への参加	・校外研修日程の周知徹底と推進委員会での企画立案と実施	A	八代地区人権同和教育・人権啓発集会への全職員参加、現地研修会への新転任者の参加を促すことが出来た。
	人権教育の充実	・全ての教育活動にわたって人権教育を実施	・人権教育に係る、年間計画の作成	・人権教育推進委員会でLHR指導案の原案作成	A	各学年年に2回の人権LHRを立案、指導案の原案を作成し、実施できた。
			・人権に係る講演会を実施	・人権教育推進委員会での企画立案と実施	B	各学年外部講師を招いて講演会を実施することができた。
	命を大切にする心を育む教育	・自他を尊重し､お互いを思いやる言葉や態度を育成できたか	・生徒の悩みや不安を早期発見 ・コミュニケーションスキルの向上 ・いじめアンケートにおける、いじめや暴力を受けたことがある生徒数の減少	・教育相談週間を学期ごとに実施 ・ソーシャルスキルトレーニング（SST）を継続実施 ・生徒自身による人権標語作成とあいさつ運動の実施	A	・各学期初めに､相談週間を設け、生徒の悩みや変化を掌握することができている。 ・ソーシャルスキルトレーニングは、生徒の実態に合わせて内容を検討しながら進められている。 ・共助委員会活動の一環として、挨拶運動を年間実施し、人権標語も学校全体の取組として実施することができた。
いじめの防止等	いじめの未然防止と適切な対応	・いじめの認知件数とその解決率の向上 ・いじめアンケート、スクールサインによる情報収集	・いじめが起きた際の適切な対応（情報集約担当者への連絡といじめ防止等対策委員会） ・いじめや友人間トラブルなどに関する情報共有の強化（職員間）	・本校いじめ防止基本方針に則り､いじめ根絶への取組実践 ・重大事態対応マニュアルの整備	B	・情報集約担当者を設置し各学期のいじめアンケートからの情報及び担任からの情報などを学年、学科、生徒指導部、教育相談部間で共有し、いじめに対しての対応をほぼ迅速に進めることができた。
地域連携（コミュニティースクール等）	総合型コミュニティースクールを基にした地域連携	・総合型コミュニティースクールとして地域との連携体制の構築	・学校運営・教育活動教育課程の承認 ・スクール・ミッションの承認 ・避難所運営マニュアルの確認・改善 ・地域の課題への取組による地域活性化	・学校運営協議会の開催（年3回）による連携体制の確認 ・地域住民の視察による防災避難訓練の実施 ・学校運営協議会での課題の集約	A	学校運営協議会では第1回でスクール・ミッションの承認をしていただき、第2回で、避難訓練の視察をしていただき、様々な課題をご指摘いただいた。災害のときの避難所としての役割や工業高校が地域に貢献できる方法を地域の方と模索することができた。
	開かれた学校づくりの充実	・PTA活動の活性化	・PTA各委員会企画の活動を学期に1回程度実施（年間で1～3回）	・各委員長を中心に企画立案（委員以外の保護者の参加も募る）	B	広報委員会は各学期の広報誌発行を行った。生徒指導委員会毎学期挨拶運動などに取り組んだ。学習進路委員会では企業見学会と上級学校見学会を実施した。文化・体育委員会では体育祭での駐車場整理、文化祭での食バザーを実施した。

		・学校関係の行事についての情報提供	・学校行事の定期的な情報発信（毎月の発信と変更や追加の連絡）	・HPへの掲載 ・「すぐーる」による情報発信	B	毎月の学校行事だけでなく学科や部活動の取組をブログ形式で掲載した。また、保護者に向けては行事案内の送信を行っている。
		・外部（企業）との連携	・保護者、地域との連携を深める ・地域産業理解を深める	・学校運営協議会の開催 ・進路行事（就業体験など）や工業科の実習に地元企業から講師を招聘	B	毎学期に学校運営協議会を実施し、授業なども見学いただいた。企業実習や進路説明会には多くの地域企業に相談・協力をいただいて実施した。
特色ある学校づくり	マイスター・ハイスクール事業の継承	・課題発見・解決力や主体的・協働的姿勢を持ち、創造的思考力の育成 ・産業界や地域の力を活用した実践的指導による産業界に貢献する人材の育成	・生徒・職員等への事業評価アンケートで「ある程度」が８０％以上 ・県内企業への就職割合６０％	・産業実務家教員および教師によるTT授業、実習（100時間） ・企業、大学による学科毎の専門的出前授業（30時間） ・企業実習 ・大学・企業視察 ・産業講話 ・先導校としての取組実施 ・拠点校と連携 ・八代市（地域）と連携	A	・産業実務家教員、出前授業を中心に約135時間（打合せ・準備含）の授業や実習を実施できた。職員向けの企業実習も実施し、技術移行や知識や技術の向上につなげることができた。 ・企業実習では、昨年度までインターンシップと企業実習に分けていたものを今年度から一本化し、全生徒が企業実習を体験し、一人ひとりがテーマを持ち、主体的に取り組むことができた。 ・企業視察、学校視察を1、2年生で実施することで次年度への教育活動や早い段階からの進路への意識づけにつなげることができた。
	工業の各分野における実践的かつ課題解決的な学び	・各科の特徴を活かした基礎の定着と、発展的な内容にチャレンジする態度の育成	・各種コンテスト入賞（３位以内） ・課題研究において地域連携・地域課題解決に関する内容に取り組む	・コンテスト等の紹介及び合格や入賞結果の報告 ・各科の学びの特色を活かした地域貢献・地域課題解決への取組	A	・ものづくりコンテスト県大会において化学分析部門銀賞、家具工芸部門銅賞。溶接部門において個人で九州大会出場。情報技術科が全国高校生 プログラミングコンテストで2年連続3位入賞 ・地域貢献、地域課題解決活動 インテリア：古紙収集BOX、九州ガスのガスタンクイラストデザイン。農業公園へのベンチ寄贈。 機械：鹿罠つくり、若手育成狩猟活動支援事業への参加。ジビエ料理甲子園出場。 工業化学：地域農家の廃棄野菜を用いたｸﾚﾖﾝ製作。球磨川流域のマイクロプラスチック汚染状況調査。農業用水がトマトの品質に与える影響を調査。小学生や保育園児対象出前授業実施。 電気：中学生対象出前授業実施。 情報技術：市役所とフォトブースプロジェクトで八代をPR。保育園行事でプロジェクションマッピングを披露。
	部活動による社会の持続的な発展に貢献	・人間関係の構築や学習意欲の向上、自己肯定感・責任感・連帯感の涵養	・個々のレベルアップを図りつつ学校全体としての意欲高揚につなげる ・部活動各種大会入賞（ベスト8以上）	・顧問の指導力向上（外部研修を含む） ・部活動生研修会を実施し生徒の自覚と自信を深め学校の活性化に寄与する人材を育成 ・公式SNSを使った大会内容の紹介及び合格や入賞結果の報告	B	・日頃の練習や試合を通して人間関係の構築や自己肯定感の向上、学校全体としての意欲高揚に寄与している。 ・(個人)全国大会1名、九州大会15名 (団体)九州大会2、県優勝1、県2位1、県3位3と好成績を残した。 ・部活動研修会を今年度も開催できた。 ・公式SNSを使い各部の活動や結果報告を積極的に発信することができた。

保健安全環境の管理	校内環境整備の充実	・環境に対する責任ある行動を実践	・SDGsを考慮した学校版環境ISOへの取組	・生徒及び職員の節電 ・節水に関する意識を高める啓発活動の実施 ・ペットボトル廃棄量の削減 ・環境系ボランティアへの積極参加	B	・生活委員会にて節電ポスターを作成し、教室不在時の消灯や空調オフを呼び掛けた。 ・エコユースやつしろへの加入を呼びかけ、加入者は生き物調査や海岸のゴミ拾いに参加できた。生徒会と連携しSDGsの意識を高めるボランティアを生徒へ紹介していく。
		・校内安全管理及び美化向上	・校内安全点検の実施 ・美化ｺﾝｸｰﾙ等の実施	・安全点検を学期に1回実施 ・生徒会による美化ｺﾝｸｰﾙを年間2回以上実施 ・部活動生徒による清掃活動を年1回以上実施	A	・学期に1回の安全点検を実施し校内安全の向上に努めた。2学期からはfoamsで点検表を作成したことで集計の負担軽減・紙の削減に繋がった。 ・美化ｺﾝｸｰﾙは2回実施し清掃活動への意識を高めたが、評価方法の課題もあり実施方法の検討も必要・部活動生による清掃活動は校内の美化向上及び部室等の整美につなげられた。
	心身ともに健康な学校生活の実現	・健康観察・健康診断結果等をもとにした日常的な健康管理の充実と健康の保持増進	・心身の健康に悩みを持つ生徒を早期発見し、健康相談及び保健指導の実施	・生徒、保護者、学校の連携と生徒情報の共有 ・毎月の保健だより発行、外部講師講話の実施 ・学校保健委員会の開催	B	・支援、ｹｱが必要な生徒について教育相談部、学年と情報共有し学校、保護者との連携に努めた。 ・毎月の保健だより発行や外部講師による性教育講話を実施し健康の自己管理への意識向上を図った。 ・学校保健委員会を2月に開催予定。
特別支援教育	特別支援教育の充実	・個に応じた指導の充実	・必要な生徒の支援計画、指導計画を作成し、適切な支援の実践	・学科、学年と連携を図り全職員共通理解に基づく支援の実施	B	個別の支援計画・指導計画を保護者の確認のもと作成できた。指導計画は形を変更し、教科担当も合理的配慮を検討して記入する形になった。積極的活用にはまだ課題が残る。
				・家庭や専門機関との連携	A	進路選択や支援計画の引継ぎについて、限定的ではあるが、専門機関と連携しながら進めることができた。
		・発達障がい、悩みのある生徒の情報の共有化と支援の実践	・科会や学年会からの情報を教育相談部で共有化し適時支援できる対応策の研究と実践	・生徒理解研修の実施 ・SSWやSC等の活用及び専門家による校内職員研修実施 ・SC面談やSSW面談後の生徒への対応（専門機関への受診動向なども含む）	A	学期に1回、生徒理解研修を実施し、学習面や身体面など課題を抱えた生徒について、情報共有することができた。発達障害の生徒への支援の方法や合理的配慮について職員研修を行い、共通理解を深めることができた。また、発達障がいの生徒の今後の進路指導についても考えるきっかけとなった。SC・SSWは、発達特性への正しい理解に向けた職員への助言、生徒面談や医療機関への受診同行など職員や保護者と連携して生徒支援を行っている。

４ 学校関係者評価

【評価】

・マイスター・ハイスクール事業による産学官連携の取組は大変評価できる。今後も保護者とも話し合いを重ねて、地元に素晴らしい会社があることをアピールしていただきたい。それが高校の存続、活性化に繋がると考える。

・八代工業高校卒業生の地域貢献度は高い。例えば地域の消防団の活動には卒業生がたくさん参加している。

・進路については成果を上げている。今後も生徒と企業のミスマッチが少なるように、先生方の生徒の進路に対する上手い導きを期待している。

【課題・助言】
・職員の負担感をアンケートから感じる。先生方の活力がないと生徒には伝わらない。いきいきしている姿があると、生徒も相談しやすいと思う。余裕がない状態だと生徒に丁寧な対応ができないため負担感を解消していただき、生徒が入学したいと思う八代工業に、先生方が働きたいと思う八代工業を目指してほしい。
・柔軟に対応できる生徒を育てていただきたい。

５ 総合評価

〇学校の教育方針については、すべての対象（生徒、保護者、職員）に対して理解が浸透しており、本校に期待されている役割や意義についても明確になっている。また、そのことと本校の魅力化のマッチング、具体的には産学官が一体となった学びやSNS、パンフレットの一新による情報発信等のPR活動が相まって本校に対する志願者増に繋がっている。
〇３年間取り組んだマイスター・ハイスクール事業がおわり、その後継事業であるマイスター・ハイスクール普及促進事業をスタートした。３年間の成果の次フェーズとなる継承・活用として、本事業の先導校的役割を担うこと、事業の理念やマインドを継承するが各科においては自律的な取組へと発展させることを基軸とし教師が体系的に構築している。
〇進路指導に対する生徒からの評価は高い、その進路に繋がる生活習慣に対する意識も押しなべて高いものがあるが、授業に取り組む姿勢や自学という主体的な行動には結びついていないようだ。授業評価や授業改善に対する教育体制を整えていく必要がある。
〇アンケートによると、９割以上の生徒が「学校に来ることが楽しい」「学校は安全な場所」「先生は悩みや相談に親身に応じてくれる」と回答している。また、「生徒の悩み等に応じている」と回答した職員は97.2％であることから、ゆらぎが多い成長過程の生徒に対して一教師の取組ではなく、多面的な角度からチームとして生徒一人ひとりに寄り添っていることが分かる。
〇「職場へ向かうことが楽しい」と回答している職員が約７割と前向きな姿勢がある。一方、約３割の職員が否定的であることに注視しなければならない。校務分掌の改革、超過勤務の削減、行事の精選など「働きがい」「働きやすさ」のどちらかだけでは答えは出ない。教師という職業に決して魅力がない訳ではない。校内では、教師と生徒が共に喜びを分かち合う様子や苦難を共にする様子もたくさん見られる。職員同士が意見を交わす場を設けるなど、ある程度の自由度を保ち陣形を崩さないような環境整備が必要である。変化の激しい時代において一教師がコントロールできない問題がどんどん起きている。だからこそ、そのような中を生きている生徒を伴走と補完、観察とコミュニケーションでチームとしての支援体制の強化を目指さなければならない。

６ 次年度への課題・改善方策

〇マイスター・ハイスクール事業が普及促進に舵を切り、自走に向けてスタートした。その中の取組の一つとして、以前から行われていたインターンシップをすべて企業実習（マイスター版）という形で実施したが、費用の面、ビジョンの共有等が曖昧であり望む成果を上げることができなかった。次年度に向けて、実施日数・宿泊型の検討、育成像との整合性の確認等、３年間の枠組みに拘らず、校内で対話を重ねながらすでに動き出している。
〇既存の校務分掌や行事は積年の違和がいろいろな形で表出している。果たして今ある校務分掌で柔軟な対応ができるのか、校務分掌を切り口に組織改革に取り組んでいく。
〇課題を抱える生徒、支援を必要とする生徒が年々増加傾向にある。学習評価による授業改善や多様な学習ニーズへの対応について、教育課程検討委員会を中心に支援体制を整え職員研修で具体的な行動に繋げる。